

緑のふるさと協力隊員・千葉遥加の奮闘記

# 風ノハルカ

Chiba Haruka volume2

川根茶には、人を笑顔にする効果がある

先日仕事で、富士山静岡空港に行く機会がありました。利用客の皆さんに、川根茶を楽しんでもらおうというコーナーのお手伝いをしてきたんです。わたしはお茶の専門知識は持っていないので、丸一日洗い物をしていましたが、洗い場からお客さんの反応を見ているのがすごく面白かったのです。一度に7人しか対応できないスペースだったため、お客さんを長く待たせしてしまうこともしばしばありました。そんなときは、不機嫌になりスタッフにぐちをもらす人もいましたが、でも、一口お茶を飲んだ途端、表情が明るく変わり、ニコニコと話し始めるのです。髪を茶色く染めた若い人から、お孫さんと一緒に旅行に行くというおじいちゃんおばあちゃんまで、例外なくお茶を飲んだあとには笑っていました。

面白いことに、お湯を淹れて一分半の待ち時間は嫌がり、「早く、早く！」と急かす人が多いのに、日本茶インストラクターが、「最後の一滴が一番美味しいんですよ」と言うと、蒸らし終わったお茶を湯飲みに出す動作は、きっちりと最後まで待つ人が多いんです。

「福岡から来た」「札幌から来た」「韓国に行く」…。色んな利用客が富士山静岡空港にいましたが、おいしいお茶の前では、みんな同じ反応でした。一煎目でまず驚き、二煎目で笑顔になり、三煎目でホッとします。

最後に、青じそドレッシングにつけたお茶の葉を食べてもらったのですが、これも好評でした。「お茶嫌い！いつも飲まない」と言っていた小さな女の子も、気持ちのいい食べっぷりでお茶の葉をたいらげていました。

「いいお茶だった、ありがとう」「こんなにおいしいお茶が飲めて良かった」という明るい声を聞くと、茶器洗いの手にも力がこもるといものでした。

茶器も一つ一つ手作りで、取り替えのきかないものだったので緊張しました。そういうものに限って、手からすっぽ抜けて飛んでいくのはなぜなのでしょう…。何度か危ういときもありましたが、何とか一日を無事にこなすことができました。

川根のおいしいお茶は、人を笑顔にする効果があると実感した一日でした。

## 千葉遥加（ちばはるか）

千葉県柏市出身 緑のふるさと協力隊員第16期生

### 緑のふるさと協力隊とは

特定非営利活動法人地球緑化センターが実施する、農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣する事業。協力隊員たちは、農林畜産業など担い手が不足する第1次産業や、新しい刺激を求めている観光施設などで、隊員活動に励み、地域の活性化に貢献する。遥加さんは第16期生、川根本町3代目の隊員。

